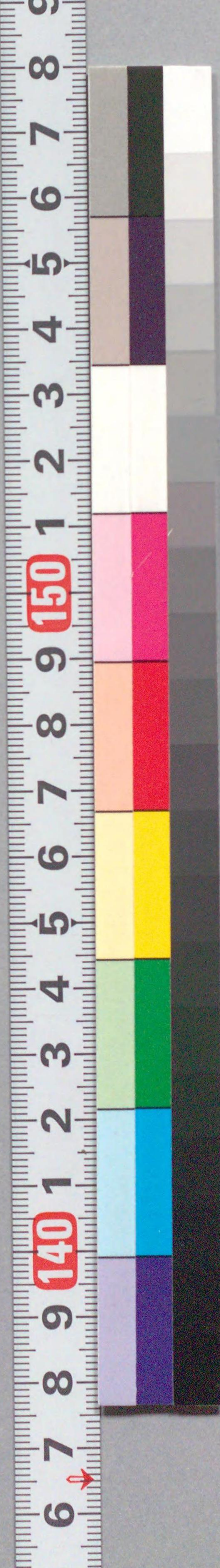




208
159

国立国会図書館 親玉の 208-159



ガラス使用

世に話さざるのハ子而み叶のハ啞禽歎けを陶少口
 のハ岩さめの子世の習ひ惣て口と用くもの話あり
 何れやまのやりのハ吐るものハ話乃滑稽巧也て驚か
 東の如くよれ吐の種を卸し今也鄙の端ぐ迄も這ても
 正良とんそ種本の間を採耕書堂ちよびと書信まば
 一益とて誰し書ハ序せよと乞ふぬハ是も嗚々序
 小なる知余の叫びもつらむべはつとらら不妄言書
 做し先半取とちやんのも一尋さげんで
 實のまの書 鬼さかしくん 皇



化めの
 手むひ呼吸むまことに傳もゆきまげ世とさうれれを
 悴のどとくりしてまあよりあきと下つて雑文うして
 疝を良ふまうて人痛まうまりしころ机のりこ
 おやぢころせんといふれ机のとの筆事とり文字を
 かく悴今うまてあうがりしりかぬを付てあうま
 悴まごうた親人あるとまこありせくれをおぢちまへ
 うせころまこよう晩もあぢさのどし七りめの晩夜
 海きころおぢちあうりしと形つきよてきさうりいれ
 通る筆事とりてこんどハ文字もあうぬ角さりのや
 ぬさそのとあうり悴一向文ドるのをよあぢちこる
 あぢちあは何といふのでまうりあぢちこるあうり
 お文字



ホヌ



人魚とくをまゝくあつていづくまのう人魚と
 めしつゝきたり亭まをねとくハハセらあめ
 女房も中けまいとあひひまのまにまを
 くとまもすは又まの亭まをねとくハハセらあめ
 中けまいとあひひまのまにまを
 七つの子供まの女房もあまりとまをねとくハハセらあめ
 子もあひまのりねをねとくハハセらあめ
 るのしあまんとくハハセらあめ
 ままのあまのりねをねとくハハセらあめ
 七つの子供まの女房もあまりとまをねとくハハセらあめ
 子もあひまのりねをねとくハハセらあめ
 るのしあまんとくハハセらあめ
 ままのあまのりねをねとくハハセらあめ

人魚



サハ



十月と神を月として神々を出世の大神と奉る名を
 ひくおんじまひとまされたるんとて神々をちりハ
 奉るそののまよりまゝ大悪のハよからをやく
 入ちりまゝいおせいりじいぬいぬおそくらうとぞん
 まゝとまゝく御代長妻老人おそらういそくくらう
 弁天の女けおそらうとていぬいぬ弁天志西のり
 こせくくらうよりくんきバ神々のそのまじりひ
 くらがたこく大悪のりばりくいぬいぬとてまの
 がたやくくらふあひりりりりりりりりりりりりり
 らせおぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬ
 とらんりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

大社



伏九



208
159



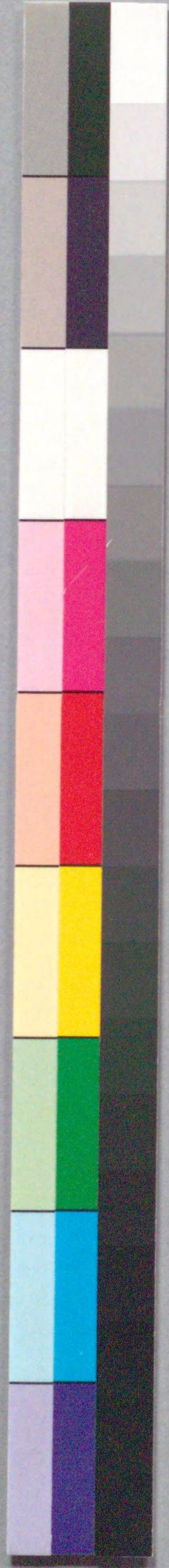
十一

曲正画

6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

208
159





国立国会図書館 嘶の親玉 208-159



ガラス使用

